

時間領域 Full wave 法を用いた電離圏下部領域電子密度推定法の改良

森山寛章 ° 三宅壮聡 (富山県立大学) 芦原佑樹 (奈良高等専門学校)

Improvement of the estimation of the electron density profile in the lower ionosphere with time domain Full wave analysis

Hiroaki MORIYAMA, °Taketoshi MIYAKE (Toyama Prefectural University)
Yuuki ASHIHARA (Nara National College of Technology)

We are going to simulate the observation process of the present MF radar system with the time domain Full wave method, and investigate the observation method with which we can obtain the precise electron density profile in the lower ionosphere. One of the general methods to estimate the electron density in the present MF radar system is the differential absorption experiment (DAE) method. The DAE method is a technique to estimate the electron density from the differential amount between the left and the right polarized waves reflected from the lower ionosphere. We simulated the MF radar with time domain Full wave analysis and examined the DAE method. We improved the DAE method by using appropriate parameters automatically, and succeeded to estimate more accurate electron density profiles in the lower ionosphere. In the present improved DAE method, however, we can only find appropriate parameters in the case that the electron density increases with increase of the altitude. Therefore, we are going to improve the DAE method, which is available in any case.

数 MHz の中波帯を使う MF レーダは、電離圏 D 領域から分反射波を観測できるため、大気中の非常に希薄な電子密度の測定にも利用できると考えられている。しかし、電離圏 D 領域の電子密度は 1 立方センチメートル当たり 10~1000 個程度と小さく、電子密度推定のためのアルゴリズムも確立されていないため、現時点では精度の高い観測を連続的に行うことは困難である。この領域の電子密度推定方法としてロケットによる電波観測を利用した電波吸収法がある。この方法で精度の高い電子密度推定を行うことは可能であるが、ロケットの打ち上げは散発的であるため、連続的な観測は困難である。本研究では MF レーダの観測手法を時間領域 Full wave 法を用いてシミュレーションし、電離層下部の電子密度を連続的に観測する方法を検討している。現在 MF レーダを用いた電離圏下部電子密度推定に用いられているアルゴリズムとして DAE 法がある。DAE 法とは電離圏 D, E 領域で分反射される左旋性偏波と右旋性偏波の反射量の違い（観測された受信電波比）から電子密度を推定する手法である。しかし、DAE 法はパラメータである吸収係数を求める際に、未知数である電子密度をある一定値（ 100cm^{-3} ）と仮定して求めている点などいくつか問題点がある。そこで、Full wave 法に時間発展を取り入れた時間領域 Full wave 解析法を用いた MF レーダシミュレーションによって DAE 法を再現してその問題点・改良点の検討を行い、吸収係数を求める際に用いる電子密度を推定された電子密度に応じて自動的に変更するように改良した。この改良した DAE 法を適用することで、広範囲で電子密度推定精度が向上することを確認した。しかし、現在のアルゴリズムでは電離圏 D 領域では高度が上昇するにつれて電子密度が大きくなる傾向を利用しているため、電子密度分布が単調増加している場合しか精度の良い電子密度推定ができない。より精度の高い電子密度推定を行うため、電子密度分布が単調増加でない場合も考慮したアルゴリズムを導入し、DAE 法の更なる改良を行う。